琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　啓発・広報(Ⅲ)

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2019-02-01
	キーワード (Ja): 佐藤総理訪米, 啓発、広報活動
	キーワード (En):
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43484

情報文化局長

第1、第2項につき　企画室長

第4項につき　分析課長　山中参事官

第3項につき　北米オ一課長
西欧オ二課長　海外広報課長

デンマーク国AKTUELT紙記者の愛知大臣に対する質問書について

3月18日 情外

在京デンマーク大使からの便宜供与依頼に基き当課を来訪した同国AKTUELT紙GUNNARSSON記者は、別添の外務大臣に対する質問書に対する回答の方を要請しましたところ、以多忙中恐縮ですが、各課関係分につき、~~英文10行程度で~~なるべく簡潔に(仮文)~~23日まで~~~~今週中~~に回答案(仮文)作成方お願いいたします。

GA-6　外務省

His Excellency the Foreign Minister,

1. You have stated in your foreign policy speech that in the nineteen-seventies Japan will follow a foreign policy which stands on its own feet. In what direction will that foreign policy go?

2. Do you think that Japan should show more responsibility in major world affairs?

3. What is the implication of the reversion of Okinawa from the point of view of the Japan-US relations?

和文にて可

4. Do you believe in the possibility of war between China and the Soviet Union?

回答要なし

5. Which human quality do you personally appreciate the most?

Grimur Gunnarsson "AKTUELT", DENMARK

北米第一課長殿

第3項目答ありがとうございました　情外

写

南方課

情外第44号

昭和45年3月20日

在デンマーク大使殿

外務大臣

AKTUELT紙記者の本大臣あて質問書に対する回答の送付

往電第36号、に関し、

GUNNARSSON記者の本大臣あて質問書（写し別添）に対する回答を下記のとおり送付するので、貴館において翻訳のうえ、同人に手交あらたい。なお、第5項には回答しないのでその旨先方に説明しおかれたい。

情外主管

GA-4　外務省

記

質問1、および2、に対し、

「わが国の60年代の高い成長は今後も維持されるものと推測されるが、わが国としては、増大する国力にふさわしい国際的責務を軍事力以外の平和的手段によって着実に果たし、世界の平和と繁栄のために積極的に寄与する覚悟である。すなわち、先進自由諸国との友好・協調関係を維持、促進するとともに、発展途上国に対して自らの国力にふさわしい援助を供与し、更に、東西の緊張緩和のために、役割は限られていることはいえ積極的に努力する。

GA-4　外務省

最近NPTに署名し、また、隣国である中ソとの善隣関係を進めようとする姿勢を取っているのもかかる決意を反映するものである。」

質問3.に対し、

「昨年11月の佐藤・ニクソン会談において、1972年中に沖縄が返還されることが確定したが、これは何より日米両国の深い友好と信頼の関係を基礎とした日米両政府間の話合いの賜物である。沖縄の返還をもって、日米両国間に残された戦后の最後の残滓が払拭されることになり、名実ともに日米関係における「戦後」

に終止符が打たれることとなった。これにより日米の友好信頼関係は一層強固なものとなり、今後、日米両国がアジア・太平洋地域ひいては世界の平和と繁栄のために緊密に協力して行くための確固たる基礎が築かれたといえよう。」

問4.に対し、

「昨年3月から8月にかけて中ソ国境において武力衝突が頻発した時期とその後特に10月の北京会談開始以来今日に至るまでの時期とでは、中ソ関係はかなりその趣きを異にするといえようが、現在の段階では、依然、北京交渉

が妥結して中ソ関係が改善に向かう可能性も、反対に決裂して対立激化に向かう可能性もあり、確たる見通しを述べるには時期尚早である。いずれにしろ、中ソ両国の隣接国であるわが国としては、紛争が平和裡に解決することを期待する。」

付属添付

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

沖縄問題
（デンマーク紙の質問に対する回答案）

問　日米関係の観点からみた沖縄返還の意義いかん。

答　昨年11月の佐藤・ニクソン会談において1972年中に沖縄が返還されることが確定したが、これは何より日米両国の深い友好と信頼の関係を基礎とした日米両政府間の話合いの賜である。

沖縄の返還をもって、日米両国間に残された戦後の最後の懸案が払拭されることになり、名実共に日米関係における「戦後」に終止符を打たれることになった。これにより日米友好信頼関係は一層強固なものとなり、今後日米両国がアジア・太平洋ひいては世界の平和と繁栄のために緊密に協力していくための実質的な基礎が築かれたといえよう。